

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<p>○めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく活気に満ちた学校 ・地域・保護者に信頼される学校 <p>○めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲良く、助け合う子ども ・よく考え、学び合う子ども ・たくましい心と体をもった子ども <p>○めざす教員像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間性豊かで、協調性を備え、「チーム城南」を支える教員 ・教育専門職として指導力を身につけ、教育愛に燃える教員 		<p>確かな学力の定着と向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決力や表現力等を身に付けさせることにより、主体的・対話的で深い学びを充実させる。 ・学年・学級を分割した少人数指導やTTによるきめ細かな指導に力を入れ、算数を中心とした学力の二極化を解消する。 ・家庭と連携して家庭学習の充実を図るとともに、進んで自学や読書に取り組み子どもを育てる。
		<p>豊かな人間性・社会性の涵養</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶し、相手の立場を思いやる言葉遣いのできる子どもを育てる。 ・Q-Uアンケートやいじめアンケートなどを実施することにより、いじめのない一人ひとりの居場所がある学校集団づくりを行う。 ・不登校傾向児童の解消に向けて、SCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。
		<p>信頼される学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から発行するたよりや学校ホームページ、メール配信等を通して、学校からの情報や子どもの活動の様子についての情報を積極的に発信する。 ・学校とPTA、地域の行事の融合を図り、共育創造に努める。 ・家庭訪問や面談などを通して、保護者と日常的な連携を図る。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
<p>確かな学力の定着と向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「まとめ」を明確に位置付け、一人ひとりの子どもが見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくりを行う。 ・自分の考えをもたせるための書く活動、考えを深めるための話し合う活動を位置付けるとともに、振り返りの工夫を行う。 ・5・6年生算数における重点単元を設定し、学級担任と専科教員が連携しながら、少人数指導に重点的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「まとめ」の位置付けについては、93%の教職員が「よくできた」と答えており、今後さらに見方・考え方を働かせることができるように、まとめの仕方を充実させていく。 ・社会科や生活科、生活単元学習を中心として、いろいろな教科等で書く、話し合う活動に力を入れて取り組んできた。今年度は特に振り返りの工夫を重点化して実践してきたため、大きな成果が見られた。 ・5・6年生算数における重点単元を設定して、できる限り分割による少人数指導に取り組んできた。算数の単元ごとや単元末のテストにおいて、6年生は80点以上の児童が約8割だったが、5年生は8割には届かなかった。 	
	0		
<p>豊かな人間性・社会性を身に付けさせる指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動部と生徒指導部の連携により、児童会を中心とした「あいさつ運動」などの自主的な取組を計画的に推進する。 ・定期的に各種アンケートを実施することにより、児童の学校生活の状況を把握し、組織的な改善の取組を行う。 ・不登校傾向児童の解消に向けて、SCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で挨拶に関する意識がかなり薄れていたが、2学期以降に児童会による「あいさつ運動」が始まってからは、児童は元気に挨拶するようになった。また、2年生が生活科の学習の発展で自主的に「あいさつ運動」に取り組み、全校に挨拶の輪を広げることができた。 ・Q-Uアンケートや「困っていること」「明るい学校をめざして」等のアンケート、一斉面談などを通して、児童の学校生活の状況を把握し、改善の取組を行ってきた。 ・担任、養護教諭、管理職が連携しながら、児童の欠席や遅刻の状況を毎日把握し、個に応じた支援を行ってきた。SCやSSW、関係諸機関とも日常的に連携し、組織的な支援を行っている。 	
	0		
<p>信頼される学校づくりの推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや各種たよりを活用することにより、学校としての考えや子どもの状況等を積極的に発信する。 ・家庭訪問や面談、電話連絡などを行い、保護者と日常的な連携を図っていく。 ・保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組の推進に活かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにより、児童の学校生活の様子を定期的にお知らせしている。また、学校からの情報発信もホームページやメール配信、各種たよりを通して積極的に行っている。 ・案件や連絡内容に応じて、連絡帳、電話、学校面談、家庭訪問などの手段を選択し、保護者と日常的にコミュニケーションを図ることができるよう努めてきた。 ・今年度は学校の諸行事についてのアンケートを実施することがほとんどできなかった。2学期末に実施した「保護者による学校評価」等のアンケート結果をもとに、今後の取組の改善に努めていきたい。 	
	0		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<p>○学力の向上については、多数の教職員が自信をもって授業等に取り組んでいる状況が伺える。また、学力の二極化等の課題も明確にしており、今後の取組が期待される。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響で指導が困難な中、豊かな人間性・社会性を培うにあたって、大切な「あいさつ運動」に取り組まれ成果をあげられていることは評価される。</p> <p>○学校づくりについては、保護者と日常的にコミュニケーションを図るよう努力されており、学校評価も良い。</p>			